

アニバーサリーフォトを撮ろう！

-自分の思いを的確に述べる-

- 1 科目名 国語総合（現代文）
- 2 単元名 随想Ⅱ
- 3 教材名 思いを述べる 忘れられないできごと
- 4 単元の内容

単元の目標
と評価規準
・評価方法

①単元の目標

- ア 限られた情報の中で自分を表現することの楽しさを感じようとしている。（関心・意欲・態度）
- イ 視覚情報と言語情報を上手く組み合わせることができる。（書く能力）
- ウ 自分自身の感情を的確に他者に伝える言葉を選ぶことができる。（知識・理解）

②単元の目標設定の理由

- ・対象となる生徒は、視覚情報と文字情報を組み合わせた情報社会に生きている。しかしその実、自分が発信する情報が及ぼす影響や余波についてまで考えが至らず、思いがけず不利益を被ったり他者を傷つけたりしてしまうことが多い。また、他者が発信する情報に対しても、正しく読解することが苦手なため、誤解して一方的に傷ついたり怒ったりしていることがある。情報を悪用した犯罪も横行する中で、自分の気持ちを相手に的確に伝えたり、相手の発言を過不足なく読解したりする技術は今後も重要性を増していくものと思われる。そのために今回は、授業の中で、情報を発信・受信する練習の機会を設けようと考えた。
- ・今回は「楽しい、うれしい、好き」などのポジティブな感情に限定するが、当然日常生活の中では「嫌だ、つまらない、嫌い」などのネガティブな感情とも向き合わねばならない。単元終了時には、その点にも触れて、どのような対応が望ましいかを生徒に考えさせたい。

③中心となる学習活動

- ・生徒はそれぞれ、自分が「楽しい、うれしい、好き」と感じるものや人、瞬間などを写真に撮り、その写真に状況や感情を説明する俳句や川柳をつけ、発表する。発表する際には教師が作品を匿名で黒板に掲示し、写真に添えられた文章の表現としての的確なもの、優れているものを全体で検討する。
- ・メリットとしては、写真という心強い視覚情報があるので文章を短くしやすいという点が挙げられる。しかし逆に、文章が極端に短くなってしまったり、視覚情報だけ充分だと判断し、説明し辛くなってしまったりというデメリットも抱える。

④言語活動の工夫

- ・高等学校の学習では、専門性の高い文章等を読解することに重点が置かれやすく、自分自身の感情や思いを表現し、発表する機会が非常に少ない。いざ意見を問われて答えに窮する生徒は多いが、それはおそらく、生徒が意見を持っていないということではなく、高等学校の教員が、自分の意見を発表する機会を生徒から奪ってしまっていることも原因の一つではないかと思われる。思いを表現する機会を設けて、十分な準備期間を取ることで、その方法を練り上げることの楽しさを生徒に伝えたい。そのため、優れた表現の例として偉人の名言や有名なキャッチコピーなどを紹介したり生徒から聞き出したりするなどして学習を進めていきたい。

⑤評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心 ・ 意欲 ・ 態度	① 他の作品を比べ、推敲を重ねている。 ② 他者の作品の素晴らしい表現を認め、価値付けている。	机間指導 発言	・自分と同じ感情や気持ちを表現している生徒の作品を比べてみるように促し、どのように写真や文章の表現が違うのかを尋ねる。
書く 能力	① 自分が表現したい感情について考え、どのような表現な	机間指導 全体の評価 発言	・まず写真を見てどのように自分が感じるか、同じような状況になったことはないか尋ねる。

		らば相手に伝わるかを考えようとしている。 ② 優れた他者の作品から学び、自分の表現を推敲しようとしている。	ワークシート	
	知識・理解	①自他の作品を比べ、優れた表現を知ることができる。	机間指導 評価チェックシート	・写真と文章を別々に考えさせ、それぞれにどのような情報を持っているかを考えさせる。
成果と課題	思った以上に生徒の取組の様子が前向きで、積極的であったことは大きな成果であった。俳句や川柳についての基礎的な知識の学習と一緒に進むと、さらに効果があると考えられる。目標設定をもっと厳密にするべきであった。また、写真や俳句・川柳を扱う上で、著作権や肖像権への配慮も必要である。教員も生徒と著作権について学ぶ機会をまず設定し、その上で今回の授業を行うべきであると思われる。			
アドバイス 及び 留意点	写真をカラー印刷して黒板に貼り付けることを意図して授業を設定したが、スクリーンにそのまま写真を映したり、パワーポイントを活用したりする方法もある。後者のやり方であれば、より手軽に活用でき、活用の可能性も広がると思われる。また、新聞への投書や投稿活動の一環として位置づけることもできると思うので、授業者が事前にどのような時期にどのような投稿先があるかを一考して、そこに目標を設定することも生徒の関心や意欲を高める重要なポイントになるのではないと思われる。			
小中学校との系統性	全学年の教科書に「伝えあうために」という題名で資料が掲載されている。学習を生かし、的確に自分の意見を伝えるために必要な手段が書かれている。			

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○視覚情報と文字情報が組み合わされているものを理解する。	・映画のポスターや広告、普段使っているメールの絵文字など、身近にある視覚情報と文字情報が組み合わさった物に気付く。【Cオ】 *留意点 ・広告などでできれば準備しておく。 ・視覚情報と文字情報を別々に提示してつなげ合わせることもできれば行う。	隣の席の生徒と具体例について話し合うことができる。【関】	CMなどは音の情報も組み合わさっていることが多いので、文字情報や視覚情報以外のものでも最初は補う。
2	○自分が表現したい思いを決定し、写真を準備する。その写真に俳句や川柳で表現したい思いを書く。	・自分が表現したい思いを決定し、必要な写真を準備する。【Cオ】 ・どのような表現であれば短い文章でも相手に思いを伝えることができるかを考え、俳句や川柳で書く。【Bア】 *留意点 ・表現したい感情を明確にし、できる限り情報を少なくするよう伝える。 ・自他を傷つけるような表現や、誤解を招くような表現は避けるよう注意する。	自分の表現したい思いを的確に表現しうる写真を準備できる。【関】 自分の思いを相手的に的確に伝えられる表現を推敲できる。【知】	困難な生徒には、感情を表す簡単な言葉を手がかりに、どのような感情を表したいのか具体的に考えるよう促す。
3	○作品を発表しあい、優れた表現を学びあうことができる。	・自他の作品を見比べて、自分にはない優れた表現を他者から学ぶことができる。【Bエ】 *留意点 ・他人の作品に対しては決して非難しないよう注意する。また、書かれていない感情や思いについては、視覚情報で補うよう考えさせる。	自他の作品を見比べて優れた表現を知り、自分の作品を再度見直すことができる。【関】 【知】	自分の作品を再度よく見直して、どのような感情を表現したかったかを再確認させ、類似の他者の作品を提示して違いを比べるよう促す。

6 第3時の学習指導案

本時の位置	3時間目 (全3時間)		
本時の学習目標	<p>ア 限られた情報の中で自分を表現することの楽しさを感じようとする (関心・意欲・態度)</p> <p>イ 視覚情報と言語情報を上手く組み合わせることができる (書く能力)</p> <p>ウ 自他の作品を比べることで優れた表現を知ることができる (知識・理解)</p>		
事前の準備	<p>① 写真を黒板に掲示できるように作品を完成させる。</p> <p>② 自由に鑑賞できるように机をさげて椅子のみ教室の前方に寄せる。</p>		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	<input type="checkbox"/> 自分の作品を見直すよう促す。	<p>① 自分の作品を音読し、何を表現したのかを説明できるように準備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相手の優れた表現に注目するよう促す。 自分の表現に取り入れたいと思った表現を参考に授業の最後には作品を推敲しなおすことを事前に伝えておく。
展開 35分	<input type="checkbox"/> 他者の作品を鑑賞する。 <input type="checkbox"/> 自分の作品と見比べる。 <input type="checkbox"/> 作品の作者を明かし気になった作品の作者に工夫した点を質問する。 <input type="checkbox"/> 自分自身の作品を推敲する。	<p>② 他者の作品をじっくりと鑑賞し、良いと思った表現をメモしておく。</p> <p>③ 後で自分の作品を推敲しなおすために、自他の作品を見比べ、メモを見返す。</p> <p>④ 作品の作者を発表し、自分がメモした作品の作者に工夫した点を質問する。</p> <p>⑤ 自分が作品から感じ取ったものと作者の意図したものが違う点があれば、特にその点に注意して確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 批判が目的ではなく、優れた表現を学びあうためのものであることを強調する。 作者を最初匿名とするのは、先入観や固定観念を払拭し、純粹に作品に向かうことを目的とすることを強調する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>目標 ウ に対する評価規準と評価方法</p> <p>〔規準〕 他者の作品の中で優れた表現を見つけ、メモに残すことができる。</p> <p>〔方法〕 机間指導をし、なぜその部分をメモしたのかを尋ねる。</p> <p>〔状況Cの生徒への手立て〕</p> <ul style="list-style-type: none"> まずは第一印象で良いと感じたものを選択させ、写真と文章とを交互に見比べるように促し、優れた表現を探させる。 </div> <p>・自分が最初に作ったものを全て変えてしまうのではなく、あくまでも推敲であることに注意するよう促す。</p>
	<input type="checkbox"/> 近くの席の生徒と、どのように推敲しなおしたかを交流する。	<p>⑥ 作者との交流から得られた考えや表現をもとに、自分自身の作品を再度推敲しなおす。</p> <p>⑦ 近くの席の生徒と自分が感じた良い表現を交流しあい、自分の作品をどのように変更させたかを発表する。聞いている側もさらにアドバイスを加える。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>目標 ア に対する評価規準と評価方法</p> <p>〔規準〕 近くの席の生徒に、自分が感じたことを積極的に発表することができる。</p> <p>〔方法〕 机間指導</p> <p>〔状況Cの生徒への手立て〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の表現と比べた作品はどれかを確認し、なぜその作品と比べたのかを尋ね、どのように感じたのかを確認する。 </div>
まとめ 15分	<input type="checkbox"/> 交流した気持ちを答えさせ、全体に広げる	<p>⑧ 交流した際にどのように感じたのかを数人の生徒に教師が指名し</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実際に携帯電話等で嫌な思いをした生徒もいるが、注意して上手く活用することでより良い情報社会を築いていけることに気付かせる。 コミュニケーションの絶対の原則は双方向であることを確認

<p><input type="checkbox"/> 情報社会において注意しなければならない点を確認する。</p> <p><input type="checkbox"/> 次時の授業の連絡</p>		<p>て答えさせ、全体に広げる。</p> <p>⑨ 次時の授業の連絡を聞く。</p>	<p>し、情報を送受信する際の「過不足なく、誤解のない」送受信方法を身につけていくことが重要であると伝える。</p>
---	--	--	--